



# 決算説明会

## 2007年3月期

2007年5月8日  
ミネベア株式会社

# 1. 業績の説明

# 2. 方針と戦略

2007年5月8日



# 業績の説明

取締役 常務執行役員 加藤木 洋治

2007年5月8日



業績の説明は全て連結ベースです。

# 連結業績

(百万円)	2006年3月期	2007年3月期	前年比 伸び率	2007年3月期計画 (2006年10月修正)	
	通期	通期		通期	達成率
売上高	318,446	331,022	+3.9%	324,000	102.2%
営業利益	19,269	26,265	+36.3%	28,000	93.8%
機械加工品	24,556	26,195	+6.7%	27,000	97.0%
電子機器	△5,287	69	黒転	1,000	6.9%
経常利益	14,595	21,843	+49.7%	22,000	99.3%
税引前利益	9,620	19,523	2.029倍	21,000	93.0%
純利益	4,257	12,862	3.021倍	13,500	95.3%
一株当たり(当期)純利益	10.67	32.23	3.021倍	33.83	95.3%

9年ぶりに過去最高売上高を更新  
 営業利益は、前年比36%増  
 機械加工品が好調、電子機器も大幅改善

為替レートの変動 06/3期 → 07/3期  
 US\$ 113.09 円 → 116.91 円  
 タイパーツ 2.79 円 → 3.18 円

2007年5月8日

3

 Minebea

まず、2007年3月期の連結業績につきましては、売上高は3,310億円、前年比3.9%増となり、9年ぶりに過去最高売上高を更新しました。

営業利益は263億円で、前年比36%増加しました。機械加工品事業セグメントが順調に伸びた一方、電子機器セグメントは大きく改善し、4年ぶりに黒字に転換いたしました。

純利益は129億円で、前年比三倍増となりました。

なお、円安による為替の影響は、売上で+132億円となっています。

# 四半期業績

## タイパーツ高、一部事業の悪化による業績改善の鈍化

(百万円)	2006年3月期		2007年3月期		前年同期比	前四半期比
	4Q	3Q	4Q	伸比率	伸比率	
売上高	81,759	83,332	83,692	+2.4%	+0.4%	
営業利益	6,002	6,609	6,289	+4.8%	-4.8%	
機械加工品	6,472	6,769	6,109	-5.6%	-9.8%	
電子機器	△470	△159	178	黒転	黒転	
経常利益	4,579	5,495	5,401	+18.0%	-1.7%	
税引前利益	721	5,075	3,334	4.624倍	-34.3%	
純利益	△564	4,209	1,185	黒転	-71.8%	

為替レートの変動 3Q → 4Q  
 (US\$117.36円 → 119.76円、 タイパーツ3.18円 → 3.49円)

2007年5月8日

4



こちらは第4四半期の連結業績です。売上高は837億円、営業利益は62億8,900万円、純利益は11億8,500万円となりました。

前年同期に比較して、売上高は2.4%増、営業利益は4.8%増、純利益は黒字転換しました。

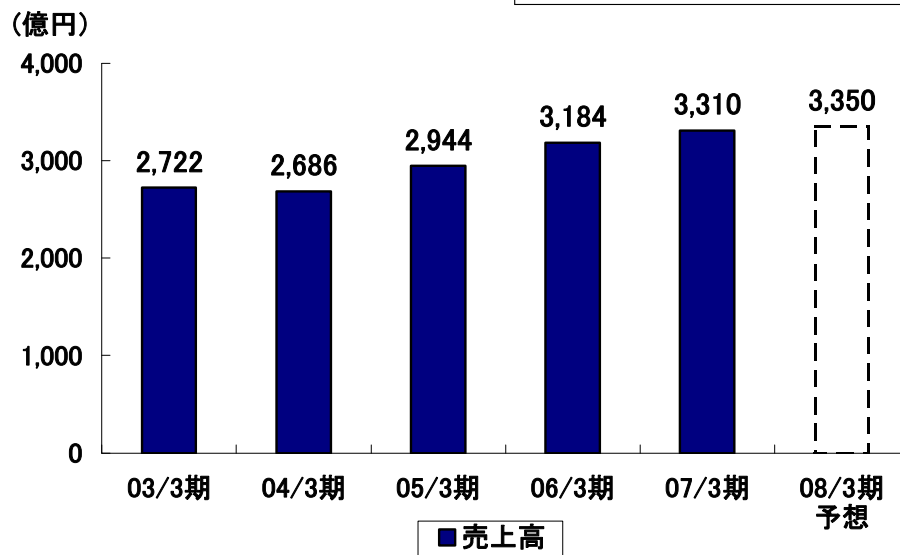
一方、前四半期に比べると営業利益は4.8%減少しており、業績改善が鈍化しました。この主な要因は、情報モーターで固定費削減などにより収益が改善したものの、第3四半期に続いているタイパーツ高の悪影響と、HDDや携帯電話の季節性による販売数量減少によってピボットアッシー、電子デバイス事業など一部事業での収益が悪化したことでした。なお、一定の前提をおいた弊社の試算では、為替の影響としては、パーツ高を中心に約15億円の悪影響があったと見ています。

なお、事業構造改革施策を実施しておりましたキーボード事業は、赤字が大きく減少し、3月には月次で黒字を達成いたしました。

年推移

# 売上高

3/07期は9年ぶりに過去最高売上高を更新



2007年5月8日

5

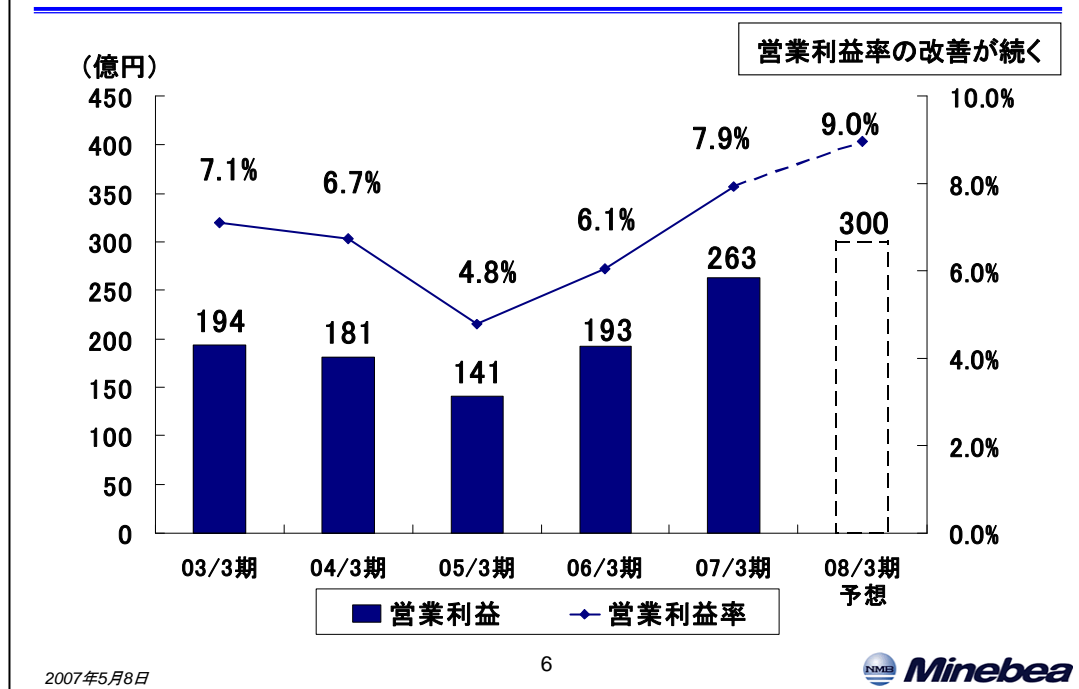
Minebea

2007年3月期は、世界景気が順調に拡大し、PC、HDD、携帯電話、航空機、自動車などの市場が伸びる中、弊社の売上高は、エレクトロデバイス、ボールベアリング、ロッドエンドなどの事業において、市場のニーズをうまく捉えた製品や、高い世界シェアを持つ製品を中心に増加し、9年ぶりに過去最高を更新しました。

2008年3月期については、キーボード事業の事業構造改革により高付加価値製品に特化するための売上減少などがあるものの、ピボットアッシー、HDDスピンドルモーター、情報モーター、エレクトロデバイス、ロッドエンド、ボールベアリングなどの事業において売上が伸びる見込で、1.2%の増加を見込んでいます。

年推移

# 営業利益

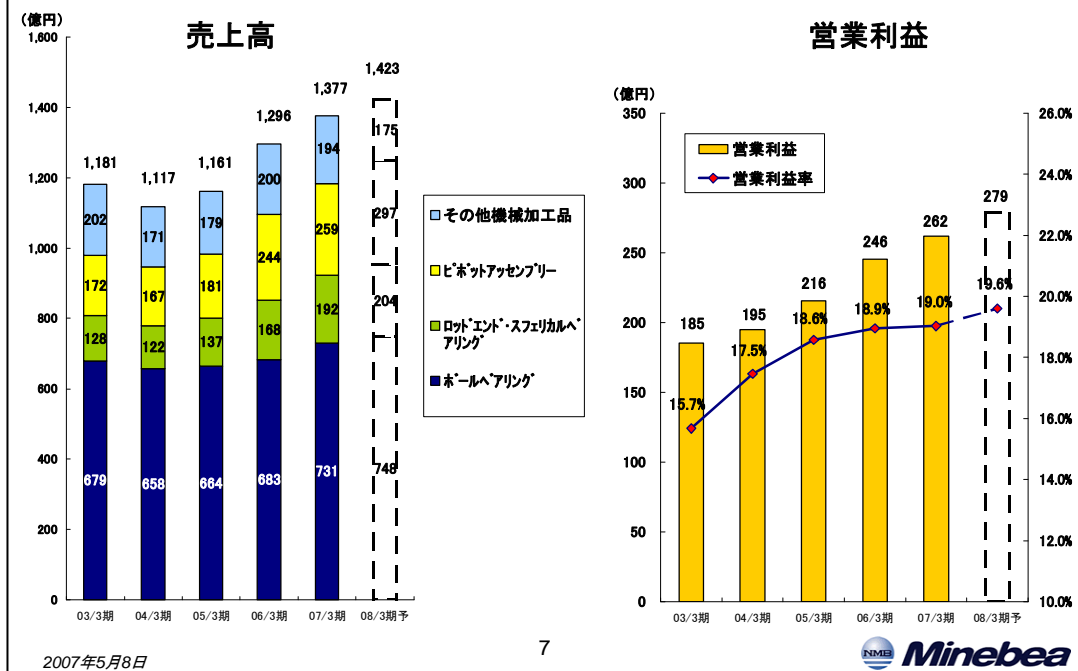


これは、営業利益と利益率の年ごとの推移です。2007年3月期は、主要生産拠点であるタイのパーツ高が進行するというマイナス要因があったものの、営業利益は263億円へ増加し、営業利益率も7.9%へ上昇しました。なお、一定の前提をおいた弊社の試算では、パーツ高を含めた為替の悪影響は、合計で約90億円にのぼりました。

ご覧のように2005年からの新経営方針の効果が着実にあらわれていますが、2008年3月期についても更なる利益増加と、利益率の改善を見込んでおります。

## セグメント別

# 機械加工品事業 売上高・営業利益

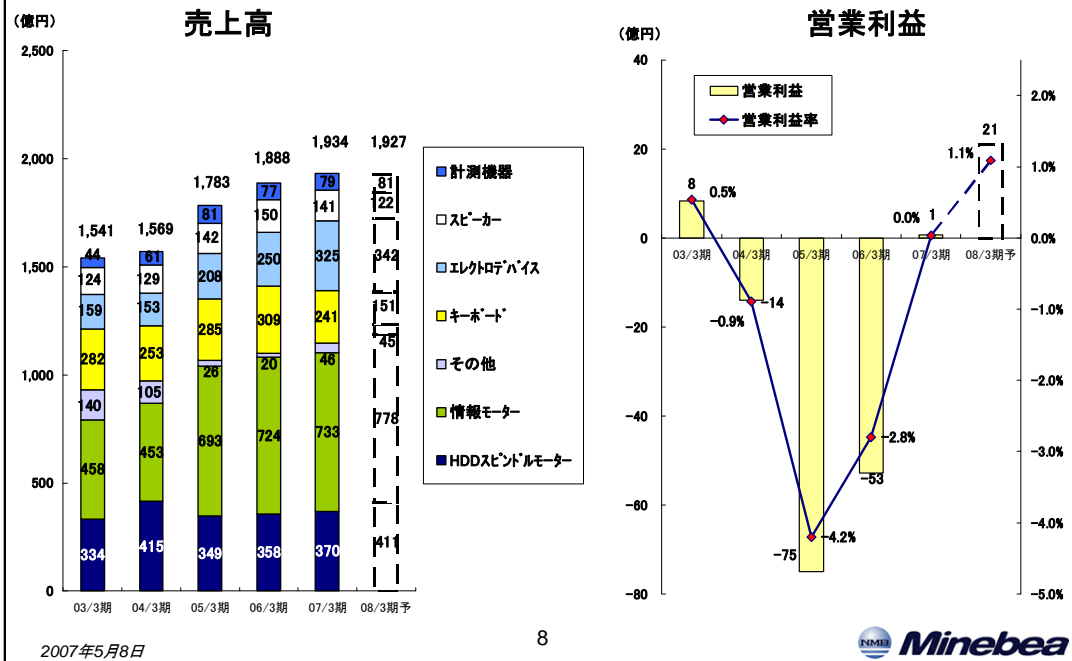


これは機械加工品事業セグメントの売上高と営業利益の年ごとの推移です。セグメント売上高は1,377億円と、81億円、6%増加しましたが、主にボールベアリング、ロッドエンド、ピボットアッシーでの販売数量増加によるものです。また、営業利益は16億円、7%増加しましたが、その要因は主に、その他機械加工品においてコスト削減が進展したこと、ボールベアリングとロッドエンドで売上成長による収益増加があったことなどによるものです。

2008年3月期については、引き続き、ピボットアッシー、ロッドエンド、ボールベアリングでの売り上げ増加を見込んでおり、それに応じた利益の増加、利益率の上昇を見込んでおります。



# セグメント別 電子機器事業 売上高・営業利益

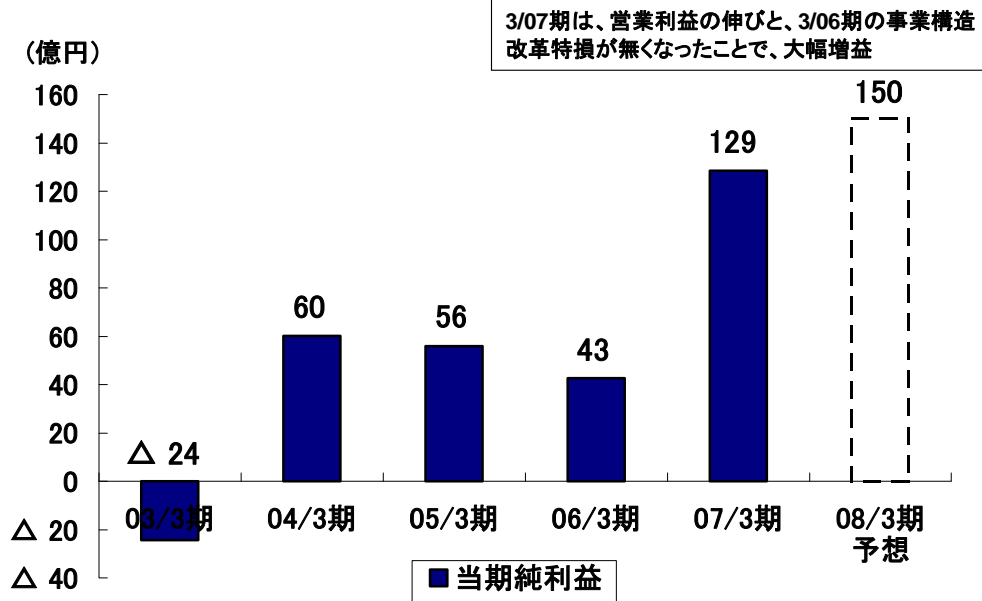


これは電子機器事業セグメントですが、売上高については、キーボードの事業構造改革による減少があったものの、主にLEDバックライトを中心とするエレクトロデバイスでの増加により、1,934億円と、45億円、2%の増加となりました。また、営業利益はわずかですが黒字を記録し、前年比較では大幅な改善となりました。その要因は主に、情報モーター、キーボード、HDDスピンドルモーターにおける収益改善策の効果があらわれてきたためです。

2008年3月期の売上高については、HDDスピンドルモーター、情報モーター、エレクトロデバイスでは増加するものの、キーボードの事業構造改革による減少が見込まれるため、全体ではほぼ横ばいと見込んでおります。また、利益面では、事業構造改革を受けたキーボード事業の大幅改善と、情報モーターなどの利益増加を見込んでおります。

年推移

## 当期純利益



2007年5月8日

9

Minebea

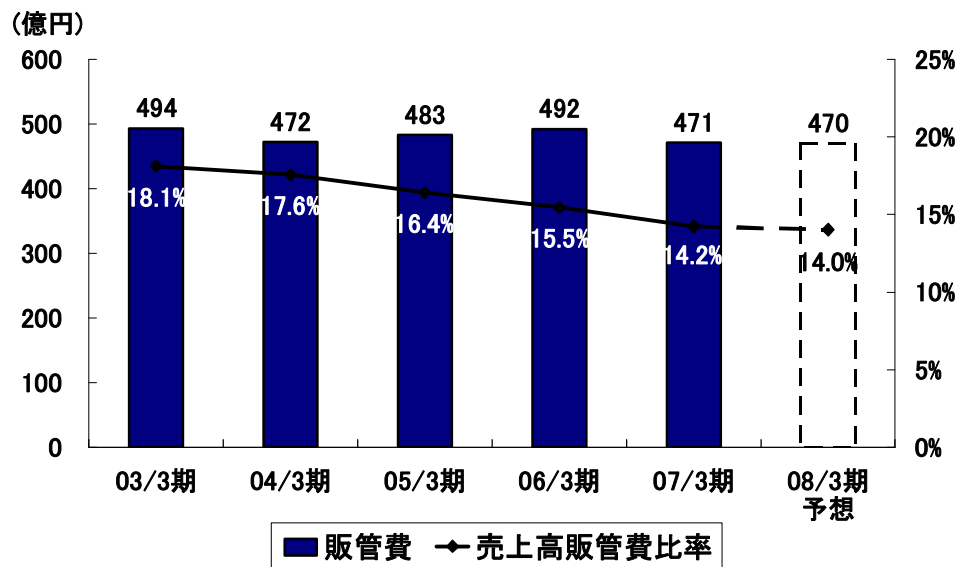
純利益については、営業利益の伸びに加え、2006年3月期にあったキーボード事業の構造改革特別損失35億円がなくなったことや、これまで高かった実効税率が正常化してきた影響もあり、三倍増となりました。

2008年3月期見込については、営業利益の伸びが見込めることから、150億円へ17%の増益を見込んでいます。

年推移

## 販管費

3/07期も引き続き、販管費率を低下させた



2007年5月8日

10

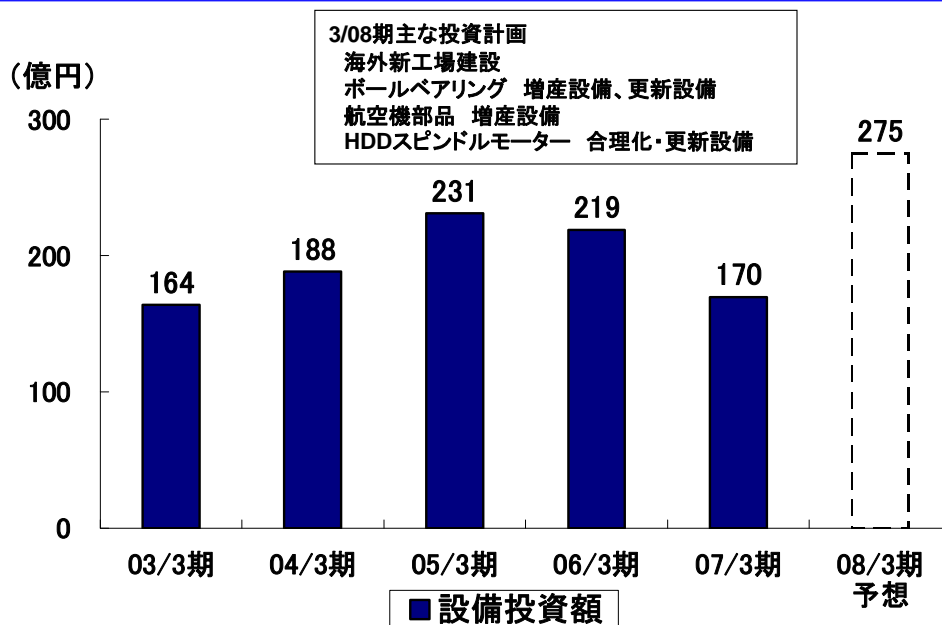


販管費については、これまでの様々な経費節減によって、対売上比率が14.2%まで低下してきております。

2008年3月期については、売上の更なる伸び、研究開発費用の増加などの上昇要因はありませんが、引き続き同程度の販管費を見込んでいます。

年推移

## 設備投資額



2007年5月8日

11

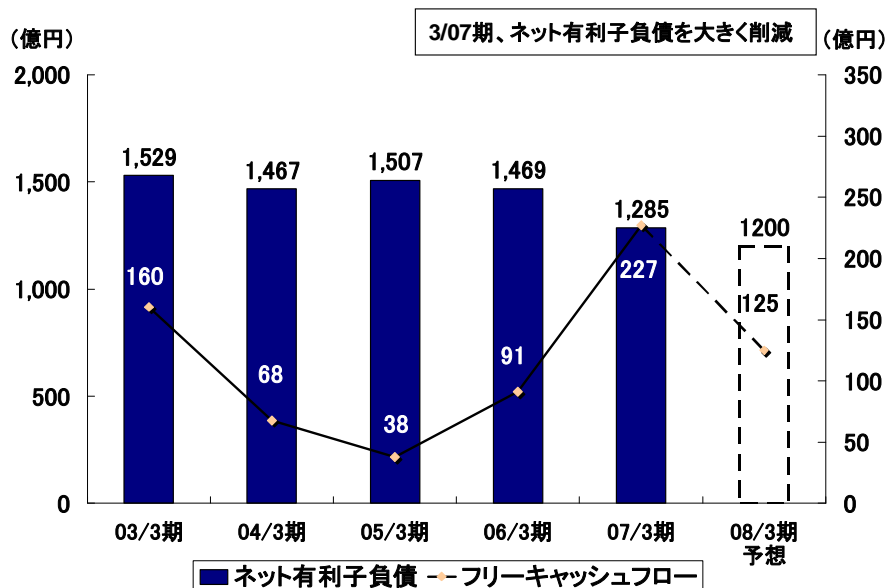
Minebea

設備投資については、これまで、効率的な投資に努め、年間償却額以下の水準での設備投資額に抑制してきました。2007年3月期の設備投資は、170億円となっています。

しかしながら、継続して増産を続けてきたボールベアリングについて、既存工場スペースの余剰が少なくなってきたため、中期的な生産能力拡大と競争力維持の観点から、新工場建設に踏み切ることにしました。その投資の一部をスタートさせるため、2008年3月期の設備投資は275億円と、減価償却費見込である248億円を上回る金額を見込んでおります。

年推移

# ネット有利子負債



ネット有利子負債 : 有利子負債合計 - 現金  
フリーキャッシュフロー : 営業活動CF + 投資活動CF

2007年5月8日

12



ネット有利子負債については、2007年3月期は、純利益の大幅増加と在庫削減などにより増加したフリーキャッシュフローを生かし、184億円の削減を行うことができました。

引き続きバランスシートの強化を目指し、ネット有利子負債の削減を行ってまいります。

## 連結業績予想

(百万円)	2007年3月期	2008年3月期予想			前年比 伸び率
	通期	上期	下期	通期	
売上高	331,022	162,500	172,500	335,000	+1.2%
営業利益	26,265	14,000	16,000	30,000	+14.2%
機械加工品	26,195	13,800	14,100	27,900	+6.5%
電子機器	69	200	1,900	2,100	30.435倍
経常利益	21,843	11,500	13,500	25,000	+14.5%
税引前利益	19,523	10,500	13,000	23,500	+20.4%
純利益	12,862	6,500	8,500	15,000	+16.6%
一株当たり(当期)純利益	32.23	16.29	21.30	37.59	+16.6%

為替レート 07/3期実績 → 08/3期  
(US\$116.91円 → 117.00円、タイバーツ3.18円 → 3.25円)

2007年5月8日

13

 Minebea

これは、2008年3月期見込をまとめたものです。

売上高は1.2%増の3,350億円を見込んでおります。キーボードの事業構造改革による売上減少などがあるものの、ピボットアッシー、HDDスピンドルモーター、情報モーター、エレクトロデバイス、ロッドエンド、ボールベアリングなどの事業において売上が伸びると見込んでいるためです。

営業利益は14.2%増の300億円を見込んでおります。事業構造改革を受けたキーボードの大幅改善と情報モーターの利益改善に加え、ピボットアッシー、ボールベアリング、ロッドエンドなどでの売上成長に応じた利益増加が見込めるためです。

営業利益の伸びを受けて、純利益は16.6%増加し、150億円となると見込んでおります。

# 方針と戦略

代表取締役 社長執行役員 山岸 孝行

2007年5月8日



# 2007年3月期 決算ハイライト

## ◆課題事業

- 情報モーター >>>> (事業構造見直し) >> 通期黒字達成
- キーボード >>>> (構造改革の成果) >> 3月、月次で黒字化達成
- HDDスピンドルモーター >> (原価低減実行) >> 赤字解消未達(パーツ高)

## ◆成長事業の拡大

- 9年ぶりに過去最高売上高の更新
- ボールベアリング・航空機部品・計測機器・ライティングデバイスが牽引

## ◆技術開発の強化

- 新製品開発 >>>> 新市場開拓 >>>> 事業拡大
- 基礎技術開発の充実

## ◆ネット有利子負債の削減

- 184億円の削減を達成(13%削減)

2007年5月8日

15



最初に2007年3月期の決算ハイライトとして取り組んで参りましたこととその成果について簡単に説明申し上げます。

先ず課題事業として取り組んで参りましたものについてであります。情報モーターについてはその目指すところを明確にして事業構造の見直しに取り組んで参りました結果、期初予定通り通期での黒字化を果たすことができました。

キーボードについては大胆に構造改革を行うことで取り組んで参りました。所定の構造改革は終了し、期初で目標としておりました2007年3月で営業利益の黒字化は何とか達成しました。今後は更に利益化を安定したもののへの取り組みを行ってゆく所存であります。

HDDスピンドルモーターであります。期初に計画をしておりました赤字解消という面では未達に終わりました。期初からの原価低減活動は予定通り進行し原価の低減も図れましたが、それを上回る通貨タイパーツの高騰が赤字解消を未達に終わらせた主要因であると認識しております。通貨の高騰を原価低減でカバーできなかった反省に立ちもう一度、更なる原価低減活動への新たな取り組みを始めております。

次に成長事業の拡大であります。赤字事業のマイナス部分の減少に加え成長事業と位置付けている事業の拡大を果たし、9年振りに過去最高の売上高を更新いたしました。成長事業ではボールベアリング、航空機用部品、計測機器、ライティングデバイスがその牽引役を果たしました。

技術開発の強化であります。この2年間重点的に取り組んできた成果が漸く現実のものとして現れてきております。後程もう少し具体的に説明申し上げます。

ネット有利子負債の削減は184億円と順調に成果を上げております。



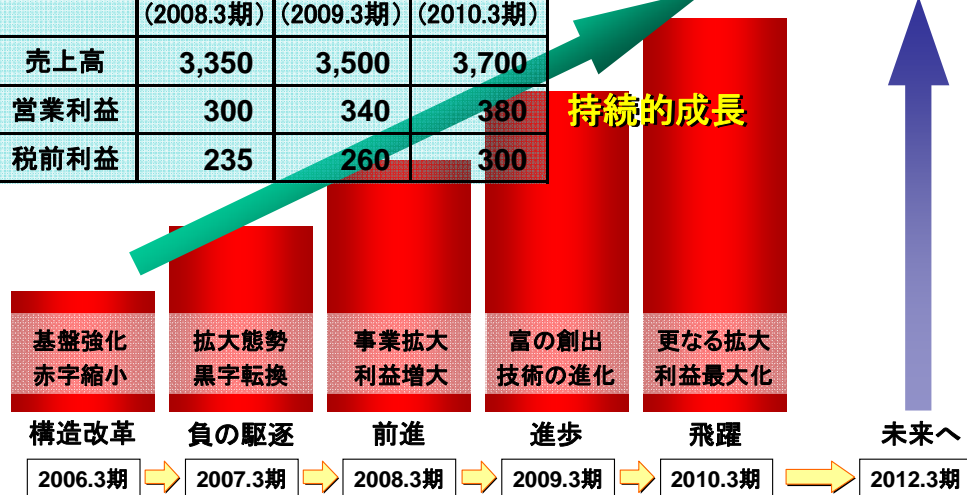
# 将来に向けて

## 中期事業計画の策定

単位 億円

	62期 (2008.3期)	63期 (2009.3期)	64期 (2010.3期)
売上高	3,350	3,500	3,700
営業利益	300	340	380
税前利益	235	260	300

売上5,000億円企業  
を目指して



2007年5月8日

16

Minebea

次に将来へ向けた取り組みについて説明申し上げます。

私が社長に就任しました初年度は構造改革の年、2年目は負の駆逐の年と位置付け、先ず現状回復を第一に取り組んで参りました。それはほぼ果たせたと認識しております。

今期、2008年3月期は前進の年とし、事業の拡大そして利益の増大を標榜し取り組んで参ります。

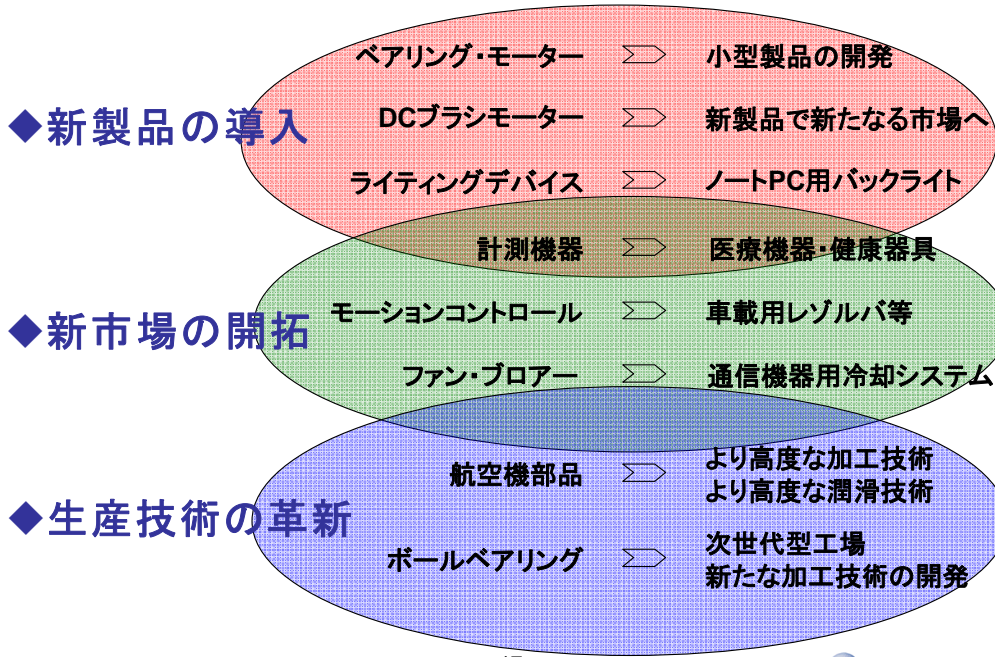
また、企業を持続的成長軌道に乗せてゆくことが不可欠であり、そのためには中期的にも更には長期的にも明確な指標を持って取り組んでゆく必要があると考えております。そのために、今期を含め中期事業計画として3ヶ年計画を策定しました。

3ヶ年の中期計画はここに示してあります通りであり、売上高では2009年3月期で3,500億円、2010年3月期で3,700億円を目指して参ります。その上で2010年3月期では営業利益率を10%以上の二桁を果たすべく取り組んで参ります。この中期3ヶ年計画では初年度の今期を前進、2年目を進歩、3年目を飛躍とうたい、将来への飛躍台にしてゆけるようにしたいと考えております。

また、もう少し先を見た長期的な展望として、5年後の2012年3月期では売上高5,000億円の企業成長を目指してゆきたいと考えております。

将来へ向けた取り組みをしてゆく上で、当社の状況がどのような成長方向へ向いているのかにつきまして、具体的製品での展開も含めてお話しておきます。

# イノベーション



2007年5月8日

17

 Minebea

将来の成長を支えてゆく糧として、当社のイノベーションは何なのかを考えてみました。

既に何回か申し上げてきております様に、当社の標榜する会社像は「ものづくりで勝てる会社、技術で勝てる会社」にあります。別の言い方をすれば技術力を持った製造会社ということになります。

その様な環境下での当社のイノベーションはここに示してあります様に、「新製品の導入」「新市場の開拓」「生産技術の革新」ということになります。これらはそれぞれが独立したものではなく常に相互関連を持った意図で進められなければならないのは当然であります。

その中でも三つのイノベーションを現在取り組みをしております具体的内容の主なものをそれぞれのカテゴリーに当てはめてみたものがここに示してありますものです。左側のそれぞれの製品がどういう方向を向いて取り組んでいくかを示してあります。

次に、これをもう少し製品毎に具体的に説明申し上げます。

# ボールベアリング

## ◆市場での成長力

- ◆ミニチュアサイズの需要増加傾向は継続
- ◆新製品で新たな市場展開

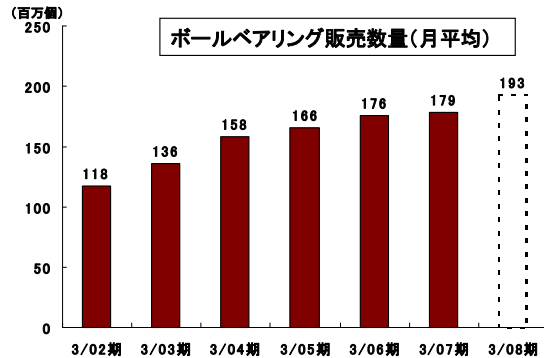


## ◆供給力とコスト競争力

- ◆月産 2億個生産体制

## ◆生産技術の革新

- ◆次世代型新工場の建設
- ◆ミニチュアサイズ専用加工機開発



2007年5月8日

18

Minebea

ボールベアリングにつきましては市場での成長力、供給力とコスト競争力、そして生産技術面での革新が鍵になると考えております。

市場での成長力ですが現時点で、ミニチュアサイズの成長力の方が全ベアリングの成長を上回っていると見ております。この2年間ミニチュアサイズの能力アップに傾注してきたことは正しかったと判断しております。もうしばらくはミニチュアサイズの高成長は続くと考えておりますが、何れ成長も鈍ってくる時は訪れると考えます。

将来に備え、ミニチュアサイズの需要を喚起できる様な市場開拓も必要になってきます。その一環として更に極小のベアリング、写真のものは外径が2.2ミリですが、そのような製品開発も行い新たな市場展開も図ってゆく計画しております。

供給力とコスト競争力については市場での優位性を堅持する最大のものと判断しております。今期中には月産2億個の生産体制を築き、高品質の製品生産と合わせ、市場での優位性を維持してゆきます。

そして、次の世代に備え、最も重要なことが生産技術の革新にあると判断しております。月産2億個の生産体制を築き上げると同時に、次の世代でのベアリング生産形態のモデルケースとなるべき新工場の建設を計画しております。同時によりミニチュア化し更に精度アップが要求されてゆくベアリング市場の中で、ミニチュアサイズ専用の加工機の開発も手がけております。

# 航空機用部品

## ◆市場の成長

- ◆中小型機 航空旅客・途上国需要での成長
- ◆大中型機 航空貨物需要は旅客以上の伸び

## ◆ミネベアの航空機部品事業

- ◆エンジン周辺部品への技術対応力の強化
- ◆生産技術力 より高度な加工技術で製品範囲を拡大

- ◆生産能力  
タイ工場の拡大により  
全体の生産能力アップ



2007年5月8日

19

 Minebea

航空機用部品についてであります。航空輸送事業が航空旅客需要で年率5%、航空貨物需要で年率6%程度の成長が見込まれております。航空機自体では旅客需要で中小型機が途上国需要が大きな牽引力となり成長を続けてゆくこと、また大中型機では旅客需要に加え貨物需要が成長の牽引力になると見込まれております。このような環境の中で航空機用部品の市場も活況を呈しており、当社の成長にとり絶好の機会が訪れており、当社の中核事業に育成すべく注力しております。ミネベアの航空機用部品事業ですが、従来から展開しているロッドエンド・スフェリカルベアリングに加え、エンジン周辺部での部品展開もボールベアリングを核にアメリカを中心に強化してきております。

そして、もう一つ新たに事業を大きく成長させてゆくものとしてより高度な加工技術を駆使した大型メカパーツの分野での展開を進めております。ここにあります写真はボーイング777と787に使用されるメカ部品アッシーで新たに製品範囲を拡大したものであります。

より高度な加工技術を必要とする展開を日本、アメリカで進めてゆくにあたり、タイ工場の生産能力の拡大を図り、従来品の生産シフトも行っております。

# モーター事業

## ◆事業の再構築

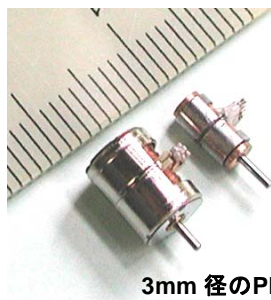
- ◆初期段階完了 次のステップへ
- ◆情報モーターは拡大期へ

## ◆ファンモーター

- ◆事業拡大の核
- ◆上海工場の整備完了 増産体制

## ◆新製品開発

- ◆モーター開発陣の強化
- ◆来期へ向けての成果期待



3mm 径のPMモーター開発に成功  
(携帯電話カメラのオートフォーカス用)



高トルク  
DCブラシモーター

2007年5月8日

20

 Minebea

モーター事業は先程も申し上げました様に情報モーターについては事業の再構築について初期段階は完了しました。これからは事業拡大へ向けた展開を図ってゆきます。

その中でもモーター事業拡大の核はファンモーターになり、上海工場のレイアウト変更による整備もほぼ完了しており、今期はいよいよ増産体制へと入ってゆける予定であります。

また、技術開発を重要視し、モーター基礎技術開発部門を強化し、新製品開発を強力に進め事業拡大を図ってゆきます。

新製品の開発につきましては、一例として2種類の新製品を写真で示してあります。一つは先月発表しました3mm径のPMステッピングモーターであり、これはカメラ付き携帯電話のオートフォーカス機構での使用を見込んであります。写真の中で3mmモーターの横にあるものは6mmサイズのものであり、現在販売しているものより一段と機能アップしたのも同時に発表したものであります。

もう一つは本日プレスリリースを出しました高トルクのDCブラシモーターであります。これは従来と同じサイズのモーターでトルクを2倍に、従来と同じトルクであればサイズを半分にできる様に高トルク化に成功したモーターであります。

今後はモーター開発陣容を更に強化し、新製品を市場へ投入してゆける体制にしてゆく積もりであります。



# ライティングデバイス


## ◆小型バックライト(1~3インチ)

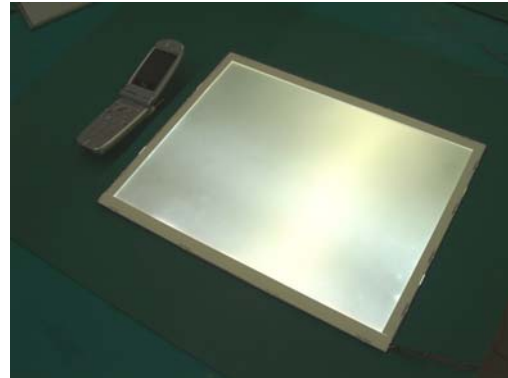
- ◆超薄型次世代バックライト → 今期後半でのビジネス
- ◆ローコスト版バックライト → 今期市場投入

## ◆中型バックライト(6~19インチ)

- ◆カーナビゲーション用  
ビジネス展開は始まった  
→今期から売上に寄与

- ◆PC用新製品  
開発完了し客先にサンプル提出  
→新しいビジネスの創出

15インチノートPC用バックライト 



2007年5月8日

21

 Minebea

ライティングデバイスであります。今期でカーナビゲーション用のビジネスがスタートしました。今期から売上に寄与する予定であります。カーナビゲーション用としてはサイズは6インチから9インチ程度になる見込みであります。

更に中型バックライトとしてノートブックPC用の新製品開発に成功しました。現在客先に紹介し、サンプル提出を行っている段階にあります。写真のものは15インチのノートブックPC用バックライトであります。これも本日プレスリリースをしております。このノートブックPC用のバックライトは2009年3月期以降での事業化を計画しております。

従来から事業展開をしている小型バックライトは既に発表しました超薄型バックライトは今期後半で具体的事業展開になります。また、市場からの低コスト品の要請に応えられる様に使用するLEDを1個としたローコストバックライトの開発も完了し市場投入を予定しております。

# 新市場の開拓

## ◆既存製品で新しいアプリケーションへ

◆いくつかの製品で具体的ビジネス展開が始まっている

### 医療機器・健康器具市場へ



2007年5月8日

22

Minebea

イノベーションの一つに新市場の開拓をあげましたが、手持ちの既存製品で新しい市場へ、また新しいアプリケーションへの展開により事業拡大を図ってゆくことが新製品の開発と並んで重要な手段となってきます。この新市場の開拓も積極的に図って参ります。いくつかの製品で具体的ビジネス展開が始まっておりますがその中から2例紹介を致します。

一つは計測機器事業であり、従来のプラント或いは産業機械等へのアプリケーションに加え自動車産業への参入も果たしました。今後は健康器具・医療機器市場への参入が事業拡大のもう一つの要因になると位置付けております。写真のものは患者さんへの薬液注入を自動的に行う装置であり、2個のセンサーと1個のステッピングモーターが使用されております。今後の高齢化社会への移行に伴いこの市場の拡大は大きく期待できると考えております。

もう一つは従来航空機用部品として生産しておりましたレゾルバを車載用部品市場へ展開をしてゆくものであります。レゾルバ自体は高信頼性の角度センサーでありこれが自動車の電子化に伴い車載用部品として使用される様になります。写真のものはレゾルバを2個使用することによりステアリングのトルクセンサーとしてモーターアシストのステアリングシステムへ使用されているものであります。更には、ステアリングの舵角センサーとしての需要が大きく見込まれます。

最初に述べました様に持続的成長を果たしてゆく上でのイノベーションとして新製品の開発、新しい市場開拓、生産技術の革新をあげましたが、その観点からの取り組みをいくつかの例を挙げ述べて参りましたが、今期はこの新たな観点から見た取り組みを核に将来へ向けた前進を図る年にしたいと考えております。

# 財務戦略：増配と有利子負債削減

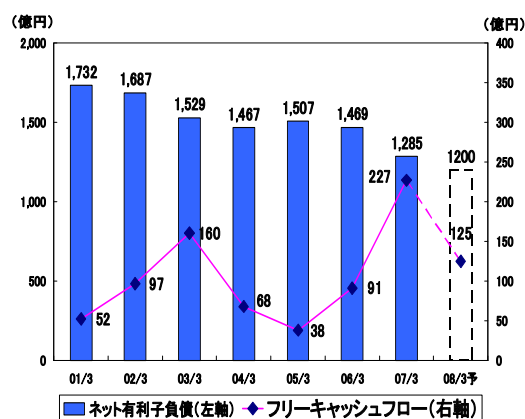
## ◆ 配当

- ・3/07期は3円増配 ⇒ 期末配当10円で、年10円配当へ
- ・3/08期も、年10円配当(予想)
- ・配当の基本方針：経営環境を総合的に勘案し、株主資本の効率向上と株主へのより良い利益配分を第一義とし、業績をより反映した水準での利益還元を図る

## ◆ ネット有利子負債削減

- ・中期目標である1,000億円水準への引下げを目指し、3/08期は、85億円の削減を計画

ネット有利子負債の中期目標＝1000億円を目指して削減を継続



ネット有利子負債：有利子負債合計－現金  
フリーキャッシュフロー：営業活動CF＋投資活動CF

2007年5月8日

23



最後に財務戦略についてご説明いたします。

まず配当についてですが、当社は、収益が落ち込んだときも含めてご支援いただいている株主様への還元として、長年にわたり年間7円の安定配当を実施してまいりました。しかしながら、一方で、収益改善を株主還元へ反映させてほしいとのご意見もいただいております。2007年3月期につきましては売上は過去最高を更新し、営業利益、当期利益ともに大きく伸ばすことが出来ました。また、ここ2年でミネベアの収益力を大きく強化することが出来たと考えています。そこで、2007年3月期の配当を3円増配し、期末配当10円を6月の株主総会にご提案させていただきます。また、今期についても、更なる収益改善を見込んでいることから、配当予想は年10円といたします。今後は、配当の基本方針としては、経営環境を総合的に勘案し、株主資本の効率向上と株主へのより良い利益配分を第一義とし、業績をより反映した水準での利益還元を図ることといたします。

また、これまでの収益改善を企業体質の強化につなげるべく、増加するキャッシュフローの使い道として優先的に負債削減に取り組み、2007年3月期は目標を上回る削減を実現しました。今後とも中期目標であるネット有利子負債1,000億円に向け、着実な削減を行ってまいります。今期につきましては、収益増加を見込ながら、生産能力拡大に向けて設備投資が増加すること、配当も増加することから、今期末で1,200億円への削減を目標としています。



# ミネベア株式会社

## 決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発・製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

2007年5月8日

